

麻生区区民会議 第4回地域交流・文化部会 議事要旨

- 1 開催日時 平成23年3月8日（火）午後1時30分～午後3時58分
- 2 開催場所 麻生区役所第7会議室
- 3 出席者 [地域交流・文化部会委員]
石井委員、植木委員、魚本委員、鴨志田委員、菅原委員、竹市委員、
武濤委員、田中委員、土井委員、柳島委員
[事務局]
安生企画課長、阿部企画課担当係長、川里
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事
 - (1) 調査審議課題について
 - ア 「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」について
 - (ア) 部会のメインテーマの一部文言変更について確認

【主な意見】

 - ・部会では、「高齢者」を中心に扱うが、障がい者やその他の弱者についても調査審議の流れの中で確認していく。
 - ・一般的に「〇〇弱者」という使われ方をするが、ひょっとしたら差別的に聞こえるかもしれないから配慮が必要だと思われる。
 - ・「弱者」というのは、保護・支援に値する人を指すものだと思う。
 - ・「障がい者」よりも「弱者」の方が柔らかい感じがする。

【決定事項】

 - ・部会の全体テーマの文言について、「高齢者・障がい者・弱者が暮らしやすい環境づくり」から「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」に変更する。
 - (イ) 今後の調査方法などについて

【主な意見】

 - ・「ささえあい協力員」「ボランティア団体」「町内会・自治会など」は、区社会福祉協議会（以下「区社協」）のささえあい事業における担い手の3本柱であって、この区民会議で進めることの3本柱ではないのではないか。また、区社協で行っていることを区民会議でもやる必要があるとは思えない。
 - ・テーマについての意見交換は今までも随分やってきたので、そろそろ具体的な行動に移したい。
 - ・まずは、資料1にある3つの項目をもとに調査審議を深めていけば、さらに別の展開への広がりにつながるかもしれない。

- ・地域包括センター等の方の意見を聞くという話もあった。これは次の焦点として当然考えられる。
- ・コミュニティバスについて、区全体の老人のこととして捉え、高齢者の問題を深めていく上で、関連するものとして一部を取り上げてもらえたら、と思う。
- ・孤立している老人、一人暮らし、老夫婦、日中独居の方など個々のケースがあり、これらの現実を理解して何をしてあげられるのかを考えていきたい。
- ・ささえあい事業は区社協で進めている事業であり、「ささえあい協力員」についても現在、区社協のスタッフが登録者の継続意思の確認作業を行っている。
- ・区社協のささえあい事業そのものを、直接区民会議がどうこうするというのではなく、例えば、利用者と担い手をつなぐスタッフの少なさなどの課題をどうしたらよいか、を区民会議からの参考意見として提出すればよいのではないか。
- ・担い手をどうする（作る）か、という点に焦点を当てればよいのではないか。
- ・区社協の「ささえあい事業」のみを取り扱うのではなく、先日（2月24日）の全体会議に提出された資料に基づき、この部会の運営を進めたい。
- ・調査に当たっては、以前、事務局で作成した、高齢者の問題等にかかる各種取り組み状況の一覧についても確認してほしい。
- ・区社協の活動にずっと携わってきているメンバーにとっては、初めて足を踏み入れる人には、新しい視点が広がる可能性や協力者を増やすきっかけを期待することができるので、区民会議が区社協の事業を取り上げることを前向きに捉えたい。
- ・リーダーに、取材する候補等を出してもらってはどうか。
- ・高齢者を中心とした課題（15項目）をどうカバーしていけるのか、を意識しながら調査に当たる必要がある。
- ・対象によって若干ニュアンスが変わるが、各組織の持っている課題が何かを聞くことが一つのポイントである。
- ・調査報告の案を作っても、その後修正の時間も必要となるので、各班ごとに計画的にミーティングや調査結果のディスカッションの時間も調整してほしい。
- ・課題の原因調査について、団体としてニーズを調べて（集めて）いるか、も材料となる。
- ・「その他」の項目で調査される際、個々の問題（引きこもりや自殺など）も非常に大きな問題だが、高齢者・障がい者などに関わるところを切り口として考えてもらいたい。
- ・（自殺問題等、ひとつの話題を前面に出すことに捉われず）ささえあいの担い手を作っていくことが一番大切なことなので、それをどのように作っていったらよいか、を考えたい。

～資料3「麻生区の情報発信に関する調査資料」に関連して～

- ・市の掲示板はけっこういい場所に設置されているが、希望してもなかなか掲示させてもらえない。折衝することはできないのか。
- ・市の掲示板については、半期に1回の年間計画調査を市役所庁内で行い、ほぼ予定

が埋まってしまっている。一方、町内会の掲示板は、有害なもの以外は取り上げてくれることもあり、広報物の掲示をより頼みやすい。

- ・地域でささえあうコミュニティシステムづくりは、高齢者にも芸術・文化にも関わることである。
- ・民間紙（誌）は、興味があれば無償で記事として取り上げてくれることもあるが、原則記事掲載は有償である。
- ・町内会の回覧板については、あまりに回覧物が多いため、現在その量を減らしてもらおう方向で町内会から行政に依頼しているところである。

【決定事項】

- ・今後の取り組みについては、課題の原因の調査、課題解決の方法について、全体会議資料に基づき、これから具体的に考えていく。
- ・まずは高齢者の問題を中心に上げていく、ということを勉強会で確認した。その上で、具体的にどういう問題があるのだろうか、という疑問から区社協の実際の活動についての話を聞く機会を持った。もちろん、区社協からの話が高齢者の問題のすべてではないが、例えば、地域包括支援センターなど調査対象をどうするか、というところで検討を深めていければよいと思われる。まずは具体的な問題の一つとして、区社協の話を受けた「ささえあい事業」から取り掛かることとした。
- ・まずは「ささえあい協力員」「ボランティア団体」「町内会・自治会」の三つ、あるいは「その他」も入れて四つの項目について、それぞれ具体的な聞き取り調査などを行い、その結果わかったことをまた整理する。
- ・我々が考えているのに一番近いのは、今のところ区社協のささえあい事業である。現実に近いところをまず手がかりとして、調査審議を進めていきたい。
- ・部会員がそれぞれ次表のとおりに分かれて調査を担当する。

班No	項目対象	メンバー
1	ささえあい協力員	★土井、植木、鴨志田、菅原、武濤
2	ボランティア団体	★植木、石井、魚本、菅原
3	町内会・自治会	★石井、竹市、土井、柳島
	その他	★柳島
	その他	★田中

※「★」印は各グループのまとめ役（リーダー）を担う。

※直接その分野に関わっていない人が担当した方がよく、必ず1人1つ以上のグループに入ることとする（重複して担当することも可能とする。）。

※「その他」の班についても、「ささえあう」という接点で取り上げること。

- ・調査日程については、概ね3月20日～4月20日位の間で、先方（調査対象団体）の都合を確認した上で、決定する。日程決定後に参加者を募集する。
- ・各班ごとに自主的に、調査先への調整連絡や調査項目の検討を進める。
- ・具体的な作業スケジュールについては、まずは直近の部分についてのみ、次のとお

りとする。

日程	内容
～4月中旬	各班での調査活動
4月28日(木) 午前9時半～	第5回地域交流・文化部会 各班の調査活動について、途中経過を話す形で 中間まとめとする。
5月中旬	→ 企画部会に報告
5月下旬	→ 全体会議に報告
6月～7月ころ	本調査事項をまとめる。

- ・調査結果のまとめは、リーダーがまず案を作成して各メンバーに確認してもらうこととする。
- ・資料3「麻生区の情報発信に関する調査資料」については、いろいろな事が区内で行われているのに本当に必要な人の下に情報が行き届いていないのではないか、という疑問から出てきたもので、これを題材にして皆さんに再度考えてもらい、次回の部会の議題としてふれたい。

イ テーマ「区民が主体となって進める芸術・文化のまちづくり」について

(ア) 区民会議としてのスタンスの再確認

【確認事項】

- ・各イベントや行事について、実行委員会等からの協力支援要請があれば区民会議としても参加する。自主的に事業提案や企画立案は行わない。

(イ) 情報発信機能など芸術・文化のまちづくりの検討

【主な意見】

- ・芸術・文化の具体的な提案「広い周知」について、どのように考えたらよいか。
- ・区民会議として、芸術・文化のことにもいろいろと提案できたらよいと思う。
- ・まちづくりに当たって、区民がどんなことを望んでいるか、そのニーズを把握する必要がある。また、芸術・文化のまちづくりについては、昭和音楽大学や日本映画大学が中心となって進めていくことができれば、より「芸術のまち」として区に定着していくことができると思う。
- ・芸術・文化のまちづくりを進める上で、「区民が主体となる」ためにはどのような方法が考えられるか。
- ・各イベントや行事についての情報発信は、町内会に回覧を要請することもできる。
- ・現在、どのような形で区民参加が呼び掛けられているのか。
- ・個々のイベントや行事について、企画→運営→報告の各段階において区民参加してもらったとしても、始めの企画段階から携わっていなければ、継続した熱意のようなものは盛り上がってこないだろう。

- ・「アルテリッカしんゆり」（以下、「アルテリッカ」とする）は、どちらかという
と大学やプロの方が運営しており、区民はお客様の対象（受け身）にみえる。果
たしてこれで「芸術・文化のまち」と言えるのだろうか。もっと区民主体で開催で
きるはずである。現に、アルテリッカのプレイベントとして先日、麻生区文化協会
で美術展を開催したが、かなり高いレベルの作品が並んでいた。プロ以外でも地元
にも意欲のある人はたくさんいると思われる。
- ・麻生区で行われる各種芸術・文化イベント「アルテリッカしんゆり」「麻生音楽
祭」「KAWASAKIしんゆり映画祭」などを、区としてまとまった情報発信を
していければよいのに、今のところは各団体ごとの広報となっている。
- ・各イベントや行事を統合して取りまとめていくところがどこにもない。どこか（団
体等）が中心となって麻生区発信の芸術・文化の全容を示せればよいと思う。
- ・麻生区の芸術・文化についての全容を情報発信していくことについては、非常に重
要なことではあるが、重たい課題でもある。具体的に、担い手としてどんな組織が
よいのかの検討が必要だし、情報のプラットフォームを作ることも重要である。

【決定事項】

- ・アルテリッカしんゆりの区民会議の支援としては、自ら主体となつての活動は行わ
ない。但し、美化清掃活動については、通常行われている美化清掃ボランティアに
「アルテリッカしんゆり開催直前の日に新百合ヶ丘周辺の清掃を行ってもらおう」よ
う依頼し、区民会議委員も協力という形で参加するスタイルとし、また、子どもの
絵画展示については、今後、文化協会に活動を引き継いでもらえるかどうか、打診
する。
- ・アルテリッカに限らず、いろいろなイベント事業を捉えて、麻生区の横断的な情報
発信を今後考えていってはどうか。そのための最初のステップとして、麻生区で情
報発信されているものは、どんなものがあり、どれだけの種類があるのか、そのさ
まざまなチャンネルの実態を事務局に調査報告してもらいたい。
- ・芸術・文化への取り組みについて、区の総合的な芸術情報発信など、何か提案の
ようなものを作成し、区民会議からの提言の中に組み込んでいきたい。具体的には、
まず武濤委員、菅原委員、石井委員の3人が中心となって素案を作成してもらい、
それをもとに部会で審議したい。

(2) その他

区制30周年に合わせた区民参加の地域づくり

【確認事項】

- ・区制30周年記念事業実行委員会に、麻生区区民会議からは武濤委員が参加するこ
とに決定した。これにより実行委員会との関わりができたので、実行委員会で検討
されたことに対して意見等があれば、区民会議からの意見として提出していく。